

問い合わせ
☎ 73・7777

柳川市民文化会館

【開館時間】午前9時～午後10時、月曜休館

水都やながわ information



新 市史抄片

【問】市生涯学習課市史編さん係 ☎ 72・1275

No.191

進化した和太鼓アーティスト DRUM TAO

THE TAO 夢幻響

日本が誇る世界的和太鼓アーティスト集団「DRUM TAO」。「30周年の軌跡・そしてさらなる未来へと向かう！」をテーマに、楽曲や舞台、衣装、映像の全てを一新した作品を披露します。新たなDRUM TAOの幕開けをぜひご覧ください。

- 日時 9月9日(土) 午後5時30分開演(開場は45分前)
- 入場料 全席指定 S席 = 6000円、A席 = 5000円(未就学児入場不可)
- 無料託児 8月23日(水)までに要予約
- 前売り券販売 6月17日(土)午前10時から市民文化会館で販売開始(1人4枚まで)。当日は整理券を配布予定



東欧に生きた音楽家たち

水都やながわ 五つ星コンサート

- 日時 8月4日(金) 午後7時開演(開場は45分前)
- 入場料 全席指定 一般 = 4000円、高校生以下 = 2000円(未就学児入場不可)
- 無料託児 7月20日(木)までに要予約
- 前売り券販売 6月18日(日)午前10時から市民文化会館で販売開始(1人4枚まで)
- 出演者 イグナツ・リシェツキ(ピアノ)、日下沙矢子(バイオリン)、西本幸弘(バイオリン)、小中澤基道(ビオラ)、原田哲男(チェロ)



イグナツ・リシェツキ

第3木曜 リトミックひろば

- 親子で一緒に楽しく音遊びしませんか。
- 日時・料金 6月15日(木) ①午前10時～②午前11時～(各40分)、500円



リトミック

子どもの耳と感性を育てよう

子どものための歌のコンサート

- 劇団四季の俳優としてミュージカル「ライオンキング」や「美女と野獣」など数々の舞台を経験し、現在はミュージカルシンガーとして活躍中のさえきまゆこさん。そんなさえきさんが子どものための歌のコンサートを開催します。
- 日時 7月22日(土) 午後2時開演(開場は30分前)
- 入場料 中学生以上 = 1000円、小学生 = 500円、未就学児 = 無料(0歳から入場可)
- 前売り券販売 6月10日(土)午前10時から市民文化会館で販売開始



第3金曜 ロビーコンサート

- 日時・料金 6月16日(金) 午後7時～(約60分)、無料
- 出演 笛×笛ユニット ふらっと



ロビコン

尊王攘夷に生きた広田彦磨

柳川古文書館長 江島 香



蒼龍隊出兵御願の表紙



蒼龍隊出兵御願の本文

市史編さん係では、人物に焦点を当てた本の刊行を数年後に予定しています。そこで、今回から本が刊行されるまで、市史抄片では柳川に関わる人物を紹介していきます。今回紹介するのは広田彦磨です。代々、広田八幡宮(みやま市)の神官を務めていた広田家に、彦磨は天保元(1830)年1月11日に生まれました。幼いときに和漢の学問を独学で学んだ後、柳河藩国学師範の西原晃樹から和歌を、足達兵治から剣法、弓術、柔道を学びました。その後、嘉永から安政(1850年代前後)にかけて京都で各藩の藩士と交流しました。また、九州諸藩へ行き、武術を通じて尊王攘夷派と交流したと言われています。柳河藩は、他藩に比べてそれほど尊王攘夷運動が盛んではありませんでした。例えば、真木和泉(久留米藩)や平野国臣(福岡藩)といった著名な勤王家と交流を持った久保田言琴や宇佐益人、彼らが師事した横地玄蕃助などの勤王家がいました。彦磨は彼らを通じていろいろな人物と知り合い、それが彦磨の後の活動に影響を与えることとなります。そうした人物の1人が北畠治房です。治房は奈良法隆寺の郷土の家に生まれ、幕末、明治の勤王家で後の

貴族院議員となる人物です。彦磨と治房は幕末に知り合い、蒼龍隊の一員としてともに戊辰戦争に従軍します。また、治房とは別に彦磨に大きな影響を与えたのが有栖川宮熾仁親王です。熾仁親王は公家で、戊辰戦争では東征大総督となりました。熾仁親王の直属の部隊として蒼龍隊が組織された際、隊長となったのが彦磨です。蒼龍隊を構成したメンバーの大半は富士山信仰を広める宗教者である御師で、彼ら蒼龍隊は、主に江戸の治安維持にあたりました。戊辰戦争後、彦磨は広沢真臣参議暗殺の嫌疑を受け、逮捕されるときに抵抗したという理由で入獄されました。明治9(1876)年に出獄してからは、蒼龍隊の隊員が住む山梨県で神官を務めるかたわら、「明治慷慨詩歌集前編」という和歌集を出版しました。こうした活動のほか、明治10年の西南戦争や同27年の日清戦争のときに、熾仁親王へ宛てて従軍願いを提出しました。戊辰戦争で国家的貢献を果たした彦磨は、国家的危機に際して従軍することを自分の責務と考えたのでしょうか。彦磨にとっては、幕末以降も「尊王攘夷運動」が続いていたのかもしれない。